

大阪研ニュース No.7

2023年7月6日

大阪研実行委員会

6月25日(日)の大阪研にご参加いただいたみなさま!本当にありがとうございました!当日は537名の参加がありました!今回のニュースは当日の分科会の様子や、参加者の声などを少しずつ載せさせていただきます!

全体会

・「光・暗闇・外遊び」というワードが、私の中で非常にしっくりきました。「早寝・早起き」は、共働きの家庭ではなかなか実践することが難しいため、特に子どもが小さい保育園時代などは毎日罪悪感にさいなまれ、そのイライラを子どもにぶつけるという日々でした。でも「光・暗闇・外遊び」なら実践できそうな気がしますし、結局は早寝・早起きに通じるとすると、本当に野井先生のおっしゃるように「早寝・早起き・朝ごはん」という強迫的な言葉をやめて、「光・暗闇・外遊び」という言葉が浸透すればいいなと思いました。

保護者

・具体例があり言葉もわかりやすく、とても良かったです。学童保育に「ワクドキ」がもっと増えるように子どもたちとつくっていききたいです。良い加減に。先生の熱い想いも伝わり、明日から頑張ろうと言う気持ちになりました。(指導員)

・「早寝早起き朝ごはん」を意識して生活するものの、なかなか理想とは程遠い毎日なので、負担に感じてしまうこともありました。違った視点で同じ内容ではあるけれど、捉え方を変えてみるとずいぶん心が軽くなった気がします。(保護者)

第7分科会「子どもが学校に行きたくないとき」

他の方のことを聞いて大変参考になってよかった。あれこれ悩んで、今の対応が果たして正解なのかわからず不安ばかりでした。「本人のことを信じて待つ」「愛情をしっかりと伝える」を大切にしたいと思う 保護者

第2分科会「働まながらの子育て」

・大変ためになりました。実際に自宅の中でも起こっている事柄についてお話を伺えて、直面した時には実践できるようにしたいと感じました。(保護者)

・コミュニケーションの重要性を再認識しました。特に親からの一方的な質問ではなく子どもが話したい事を聞いてあげることが必要であり今後実践したいと思います。(保護者)



第5分科会「障がいのある子どもと共に育ちあう」

はじめに指導員・保護者の報告があり、具体的でわかりやすかった。先生のお話も具体的な子どもの様子や事例が沢山あり、とても参考になった。大切なことは、子どもの発達は一入ひとり違い、子どもを主人公にしてその子の願いに寄り添うことだと思います。そのためには、学校や家庭ともしっかり協力して一緒に子どもたちを見守ることが必要だと思いました。 指導員



分科会8「絵本のある生活を広げよう」

講師の先生や世話人の方がたくさんの本を持ってきてくださって、会場は絵本に囲まれた分科会となりました。

特に会場に来られた方は、休憩時間に講師の先生の紹介して下さった本を実際に手にとったり、先生に質問されたりと、会場開催ならではの良さも感じられました。

3時間弱の中で絵本の良さや、参加された方の好きな本など沢山の本に触れられた分科会だったと思います。



特別企画「ひるぜん野外研修」



ひるぜん野外研修は沢山の学び合いがあり、現地の人との交流で食べる事が出来る木の実や熊笹茶作りを教わった。失敗も学びに変えようと実験的に取り組んだ燻製や、様々な味付けをした牛乳パック焼きそば、パエリア作り。火起こし体験、キャンドルファイヤーやトーチ製作、薪の組み方。夜のキャンプファイヤーは火の粉を巻き上げ天まで届く勢いで燃え盛る炎を真ん中に、1/f ゆらぎの中で各々の取り組み方を語り合う。知識として理解していても、実体験なくして習得はできなかつただろうと痛感した。働き続ける上で、学び合う事によって子どもたちに伝えられる魅力の幅が広がると確信した。本研修で学び合った事、魅力、経験する事の重要性を、子どもたちへ伝えていきたい。

第4分科会「子どもに性の事を聞かれたら?子どもとっしよに学びあう」

今まであまり考えた事がなかった性のこと。この分科会を受けて自分自身が子どもの時にどんな風に教えてもらったか思い出しながら聴いていました。改めて大切な事だと思い今後子どもと一緒に考えていける良いきっかけになりました。また先生の「性」だけではなく「生」いのちのこと。という言葉はとても印象に残っています。休日に勉強かーと思って参加した大阪研でしたが帰る頃には来てよかったなと思える時間を過ごせました。

保護者

分科会3「自己肯定感ってなあに？」

◆保護者

- ・甲斐先生の教師時代の子どもたちとのエピソードを聞いていると嬉しいな気持ちでホッコリでした。
- ・子どもの自己肯定感の育み方について、まずは共感するところから始めてみようと思います。交流では基調なアドバイスを頂きました。

◆指導員

- ・甲斐先生のまなざしの温かさを感じました。
- ・自分自身のこと、自分の子どものこと、学童の子どもたちのことを振り返ることができた。交流でもいろいろな意見を聞いて良かったです。

みんな真剣に勉強中です。ワクワクとドキドキが大切。



分科会6「どうしてますか？保護者会」

- ・みんな悩みながらも、保護者会って「子どもたちの成長や様子を伝え合い、保護者と指導員が共に共感し合える場、つながれる場」であると感じました。
- ・コロナ禍が明け、これから「どうつながっていいのかな？」と考えている状況の中、いろんな角度から交流する事ができて良かったです。

保護者会活動
どうしてます？

分科会①「子どもの育ちの見方、子どものねがいのとらえ方」
子どもの反抗的な態度も出てきて対応に悩む時期がありました。今回、反抗は自立したい！思いの表れ、またギャングエイジの中で子どもは親から教わった良い悪いの判断を学び直しているなどのお話を聞きとても勉強になりました。生活の中でつい口うるさく言ってしまうがちですが、子どものこと、子どもの育つ力を信じて、あたたかく見守れる親になれたらなあと思います。

保護者



堺会場のみんなで、
ハイッ！チーズ！

この1日でみなさんが本当にたくさんの事を一緒に学べたんだなあ。と実感しています。

この他にもまだまだ載せたい事はありますが、それは最後の実行委員会ニュースでお伝えできたらいいなあと思います。

次回のニュースができるまで、ドキドキワクワクしながら待っていてくださいね。

ひるぜんでは、ダンボールで作った燻製。美味しそうですね。



けん玉&コマ上手
になりたい人っ！



分科会9「親子でけん玉・コマ」

◆保護者

- ・大阪市の城東区まで。そこまでしなくてもよかったかなと最初は思っていたのですが、対面で他の子や大人の方たちとたくさん話をして子ども姿を見て、参加できてよかったと思いました。

◆指導員

- ・会場での対面での開催が出来て本当に良かった。実際の子どもたちや保護者の方々の「できた！」の声を聞くことが良かったし、何より笑顔がたくさんあった分科会となりました。